2020 年度 グローバル化 FD ランチミーティング part Ⅱ
「国際的な研究環境構築を目指し研究室に留学生を受け入る準備をしよう」活動報告

グローバル教育院

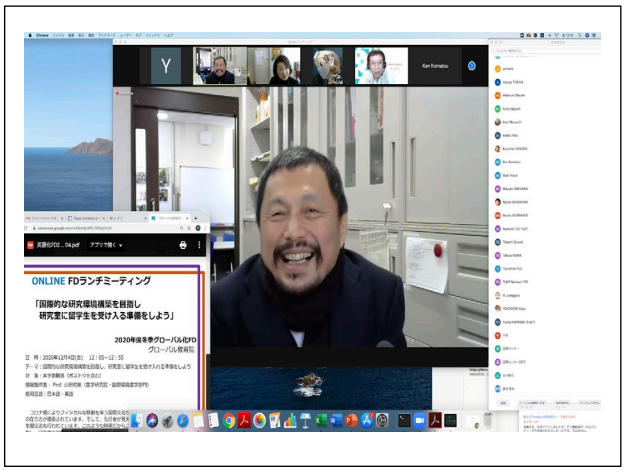
日　時：2020 年 12 月 4 日(金) 12：05～12：55

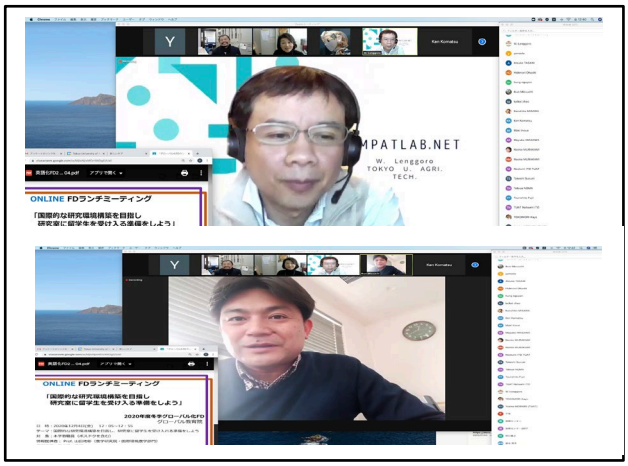
形　態：オンライン **Google Classroom（クラスコード：tt4txze）**および Zoom meeting

概　要：国際的な共同研究を推進していくために留学生をどのように受け入れ、研究室運営をしていくかについて議論する

参加者：本学教職員 28 名

情報提供者： Prof. 山田祐彰（農学研究院・国際環境農学部門）





グローバル化 FD ランチミーティングの様子

【情報提供の概要】

山田先生の過去 20 年間にわたる国際環境農学専攻での留学生受入のご経験を共有いただいた。

留学生への研究指導は文化や言語が異なる中で苦労も多い。留学生がどういった身分で来日するかによって、困難さの度合いも異なる。しかし、留学生ネットワークをもとに姉妹校での共同研究を広げること、学生の出身国の社会開発現場に関わることができるなどの成果も生まれている。留学生の多様な文化背景に起因する異なる視点からの話題提供、議論の整理などが実現し、留学生から日本人学生が得る刺激は大きい。

【ディスカッションの観点】

・留学生と日本人学生の研究室における割合

・学生の英語使用グループと日本語使用グループの分断に対する対処

・留学生から得られる日本人学生のマインドの変化

・コロナ禍における国際共同研究の在り方（姉妹校相互交流を生かしたリモートでのやりとり、農工大 OB/OG の世界的ネットワークの活用）

・留学生がホスト国である日本を理解することの意義（「親日家」ではなく「知日家」に！）

参加者のアンケートから

◆FD を通してどのような気づきがあったか

・コロナ禍の状況で、国際交流をどのように推進していくかについて、オンライン（リモート）で頻度を上げて意思疎通を図っていく、また、これまでのやり方の弱い点を見直すチャンス捉える、率直に話し合って考える、という点が非常に有益でした。

・留学生と日本人学生の相互理解の機会提供の重要性

・困難な時や困難な事柄に対しても意識的に突破していくこと、コロナ禍でもできることをやっていくこと、勇気をもって物事を進めることを改めて山田先生のお話から感じました。

・研究室内で、英語モードの留学生と、日本語モード(かつ会話の積極性は低い)の日本人学生との間の心理的壁を減らしたいという趣旨の質問をさせていただき、日本人学生に海外経験をさせること、研究室内でコミュニケーションが必要な状況を増やすこと、教員がざっくばらんに雑談をすること、など、色々と試してみようと思うことがありました。今日の山田先生のお話の中で、知日家をという文脈の中で、 以前あった日本文化を学ぶクラスが、今は無くなった？というようなお話があったかと思います。 以前 STEP で来ていた大学院生が、半年そういう授業に時間を取られて、研究経験がもっとできたら良かったという話をしていたことがあり、私はその話をどこかの委員会で発言したことがありました。どちらかというと、否定的なトーンだったと思います。 しかし、今日の山田先生のお話を聞いて、知日家になってもらうことの重要性や、日常生活に直結した実用的な生活関係の情報提供などの有効性など、当時あまり気づいていなかったと感じました。日本文化や日本での日常生活についての知識が非常に少ない留学生にはこのようなクラスが重要であると気づかされました。

・The discussion about how to communicate with the international student and help with get used to the life in Japan are useful.

・留学生にとって、本学に入学する前にお試し留学期間または準備期間を設定するということが、大学側、留学生側双方に利点があるということを明確に意識することができました。また、留学生に必要な実践的な語学教育、日本語での生活実践という観点からの留学生支援の必要性についても改めて意識を強めることができました。

・留学生と日本人の間に教員が入って積極的にコミュニケーションを取る、という部分については非常に共感できた。

・部局の先生が，留学生の日本語・日本文化理解の重要性を思った以上に評価されていたことが大きな学びでした。

◆今後に向けて

・他機関でご経験のある山田先生だからできる取り組んできたこと、国際環境農学専攻の事情等が聞けて良かったです。農工大が進むべき国際貢献のあり方について少し見えてきました。これまでほぼ「国際貢献」にかかわっていない教員がいることもわかっていますが、彼らにも今日の話の内容を聞いていただきたいものです。

・外国への関心や、外国人との交流への関心が、少ない日本人学生を、如何に巻き込むか(関心を引き出すか)というような事例がわかるようなお話が聞けると良いなと思いました。

・留学生の日本語習得環境をキャンパスを上げて構築することは、留学生、日本人学生を含めよりよい研究環境整備につながると思っています。皆がそういった意識を持って現場を作っていくことが肝要だと思いました。
・「留学生を受け入れる準備」と聞いて参加したが、全体的に「既に留学生を受け入れている教員に向けた話題提供」という感じで、思っていたのと違うという印象があった。その意味で、今回は大ベテランの山田先生から話題提供していただいたが、最近留学生を初めて受け入れたような教員の話も可能であれば聞いてみたいと思いました。
・質疑応答の時間に興味深いご意見を伺えました。以前も別の参加者から指摘があったと思いますが、この FD で議論された内容や提案が、何か形のあるものに生かされたり、今後の取り組みに繋げられたりするシステムがあると良いのにと思いました。
・いつも色々な分野・角度からの国際化を具体的に取り上げてくださっているので，今回はその点と点が繋がってきた印象でした（レンゴロ先生のお話等)。やはり総論よりはこれまでと同様にできるだけ具体的な事例やお話を通しての方がその先の検討や発展につながる気がする
・Inviting some international students to join and discuss may be helpful.